

解答例

問題：肥満に関する資料①～資料⑦を読んで、以下の設問に答えなさい。

問1 日本の肥満の現状について、資料①から読み取れることを250字以内で述べなさい。

図1からは、日本の場合、性別で見ると男性の方の肥満割合が高いことがわかる。年代別では男女ともに20歳代の肥満割合が低く、とくに女性は全体で最も低い値を示しているのに対し、男性では40歳代、女性では60歳代の肥満割合が最も高くなっている。図2からは、男性はどの年齢階級についても肥満割合が増加傾向にあるのに対して、女性は横ばいであり、40歳代や50歳代ではむしろ減少していることがわかる。図3からは、日本は人口の多い国のなかでは肥満割合の高い国ではなく、男性は中位、女性は下位に位置づけられることがわかる。(248字)

問2 資料②～資料⑥のそれぞれの文献が示す肥満に関する見解を比較して、550字以内でまとめなさい。

資料②は医師の視点から肥満を健康上のさまざまな問題を引き起こすリスクと捉えている。この視点からは肥満は拡大を防止すべき対象と見なされる。これに対し、資料③はプラスサイズモデルの視点から、肥満の人が見た目を理由に否定的に評価されるルッキズムの問題を指摘している。この視点からは、肥満の拡大防止ではなく、外見についての価値を自分で決めることの重要性が説かれる。資料②の医師は見た目の問題と医学的問題は分けて考えるべきだと主張しているが、資料④は肥満に対する否定的評価と医学との結びつきを指摘している。この資料によれば、太っている人を自己管理のできない人として否定的に捉える考え方は、20世紀以降の予防医学によってもたらされた。この考え方は病気の原因を個人の責任にもとめる自己責任論の温床となっているとされる。資料⑤と資料⑥はこうした肥満に関する自己責任論を否定する視点を示している。資料⑤によれば、肥満は経済的地位の低いマイノリティやワーキング・プアに最も多く、資料⑥によれば、肥満の背景には健康ではなく売り上げを重視する食品業界の問題がある。これらは、肥満になるかどうかということは個人が自分の意思で完全に管理できるものではなく、社会環境によって決定される側面があることを示している。(541字)

問3 問1と問2の解答、および資料⑦を踏まえて、国の肥満対策はどうであるべきか、現状の肥満対策の問題点を指摘した上で、あなたの意見を700字以内で述べなさい。

資料①と資料②によれば、日本では男性の肥満が増加傾向にあり、肥満は健康に悪い。このことを踏まえれば、とくに男性については肥満の拡大を防止する必要性があるといえる。肥満が経済的地位の低い人に多いという資料⑤の指摘が日本にも当てはまるのであれば、肥満対策を行うことには経済格差にともなう健康格差を解消するという積極的意義もあるといえる。

こうした理由から私は国が肥満対策を行うことを支持する。ただし、現在の国の政策には問題も多いと考える。第一に、資料⑦からは国の肥満対策である健康日本 21 が健康格差の問題を扱っていないことが読み取れる。第二に、資料④が指摘するように、健康日本 21 のような予防的介入は太った人を自己管理のできない人として否定的に評価する自己責任論の原因となる。肥満に対する否定的評価は資料③が指摘するルッキズムも強化しかねない。第三に、健康日本 21 は個人を対象にしているが、資料⑥を踏まえれば、食品業界に介入する必要もあるだろう。

以上の問題点を踏まえて、私は国が食事や運動の指導をするプログラムを希望者全員に無料で提供することを提案する。実際に利用するのは富裕層よりも貧困層が多くなるだろうから、間接的にはあるが健康格差の是正が期待できる。また、肥満を個人の自己管理の問題と捉えるのではなく、自己管理できるように国が積極的に支援することで自己責任論やルッキズムの台頭も防げる。この政策に加えて、加工食品に含まれる糖分や脂肪分に規制を加えることで、肥満になりにくい環境も作り出していくべきだ。こうすることで個人の自律を最大限尊重しつつ、健康を公平に保障することが可能になるだろう。(696 字)